

地理歴史科・公民科（地理総合）学習指導案

1 単元名 歴史資料を導入とした地理情報システム（GIS）の活用
この単元は、「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」の「(1) 地図や地理情報システムと現代世界」の「地図や地理情報システム」に該当する。

2 単元目標

- (1) 地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性などについて理解する。
- (2) 地図やGISを活用する技能を身に付ける。
- (3) 統計地図やGISなどから得られる情報を多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 統計地図やGISを活用し、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画(全体6時間)

(1) 指導計画

- ・地球上の位置と時差 1時間
- ・地図の役割と種類 5時間（本時5/5）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活の中で見られるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。	・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察したり、表現したりしている。	・地図や地理情報システムを活用し、事象の位置や分布などに着目して、主体的に課題を追究、解決しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	<p>【学習課題<単元を貫く問い>「自分が表現したい内容を提示するのはどの地図を活用し、表現するのがよいか。」</p> <p>・地球上の位置関係と生活に与える影響</p>	【ねらい】緯度や経度の違いが時差や自然現象に影響を与え、それにより生活に影響を与えることを理解する。	○		●	(B) 中学校で学んだ知識や経験をもとに、緯度の違いや時差が与える影響を理解している。 (C) 机間指導しながら、中学時代の学習内容の復習を行う。	・ワークシートの記述を基に評価する。
第2次 (5)	・図法、さまざまな地図の種類と活用	【ねらい】図法、さまざまな地図について特徴を理解する。 ・各種地図の特徴と作成上の留意点を理解する。		○		【思】(B) さまざまな地図の特徴について説明し、活用法を考察している。 (C) 各地図の特徴を確認し、活用法を明確化する支援を行う。	・ワークシートの記述を基に評価する。
	・地理情報システム(GIS)の活用	【ねらい】地理情報システム(GIS)の概念と活用法を理解する。			●	【思】(B) GISの活用法を挙げ、その有用性が理解している。 (C) 統計データと教科書の活用例を比較し、考察するよう支援を行う。	・ワークシートの記述を基に評価する。

<p>【学習課題】〈問い〉「複数の地図を比較することで読み取れる内容は何か。」</p>	<p>・安城市と西尾市の古地図と各種地図を比較する。</p>	<p>・資料を選び、他の地図の読図や地理情報システムによって得られた情報をもとに考察し、主体的に課題を追究する。</p>	●	○	<p>5 (1)参照 5 (2)参照</p>	<p>・ワークシートの記述を基に評価する。</p>
---	--------------------------------	--	---	---	----------------------------	---------------------------

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 地理院地図やGISの活用法について理解する。

イ 複数の地図から得られる情報を、多面的・多角的に考察し、表現する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 西尾・安城市の歴史資料 	<ul style="list-style-type: none"> グループを作り、各班資料を1点選択する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 資料の説明 地理院地図とハザードマップから読み取れる内容 情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、資料について概要をまとめる。 資料と現在の地図を比較し、変化した点をまとめる。 地理院地図の土地利用図を利用し、資料の立地条件を確認する。 ハザードマップの読み取りを行い、災害が起きる場所を確認し、遺跡との関連を考察する。 調べた内容を、他の班と情報共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔なまとめとし、深入りさせないように留意する。 地理院地図を利用し、読み取りを行うよう指示する。 ●ワークシート2 【思考・判断・表現】 地形という自然条件で立地が説明できることに気付かせる。 ○ワークシート3 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡付近で予想される災害を防ぐ手だてを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各資料から読み取れる内容にとどめ、深入りさせないように留意する。

(3) 本時の評価規準（5 「評価材料及び評価規準」参照）

5 評価材料及び評価規準

(1) ワークシート2【思考・判断・表現】

・遺跡の立地条件を地理院地図や機能を使って読み取り、表現できる。

評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・調べた内容を踏まえて考察し、意見をまとめている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・Bに加えて自然的・社会的条件に言及し、意見をまとめている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・意見をまとめることができない。→土地利用図に注目し、地形から立地条件を考察するよう促す。

(2) ワークシート 3 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・遺跡の立地条件を読み取った上で災害との関連を考察し、表現できる。
評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・二つの視点から考察し、意見をまとめている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・Bに加えて多角的な視点から考察し、意見をまとめている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・意見をまとめることができない。→遺跡の立地場所を、土地利用図と水害、あるいは津波ハザードマップと組み合わせて考察するよう指示する。

6 成果と課題

(1) 成果

本校は、西尾市からの通学生が約 60%、安城市が約 30%を占める。今回の実践では、両市内の資料を用意したが、必ずしも知っている資料・地域とは限らず、生徒達には新しい発見があったようだ。各班は、人数の多い市の資料を選択した。3年地理B選択者を対象に実施した時には、西尾市天竹神社を選んだ班が最多で（10班中5班）、安城市安城が原を選択した班はなかった。

3年生であるため、地形図や各種地図の読図・まとめはスムーズにできた。作業を通して台地の広がる安城市に対し、沖積平野の広がる西尾市の姿を明白にできたようだ。グループワークで取り組んだため、それぞれが異なる地図を電子媒体に表示し、比較・検討を進める生徒達の姿が見られた。評価については、5(1)はA 8人、B 26人、C 4人、(2)はA 9人、B 27人、C 2人とし、例は以下のとおりである。意見をまとめる際の視点に注目し、文章の長短は評価の対象としなかった。A・B評価の生徒は、中学時代の学習内容や高校での既習事項を踏まえて考察・表現できた。以下に5(1)、(2)のA・B評価の例を示す。

5(1)	○資料2：それほど大きくない川の周り、台地と平地（河川の氾濫によって形成された平坦地）の境に多い。→基本全ての場所に住宅地が広がる、電車が通る、古墳が神社や寺になっている。【A】 ○資料4：川が流れており、三角州となっている。主な土地利用は水田である。自然堤防のところに住宅が集まっている。【B】
5(2)	○資料2：台地上は洪水のリスクは低い。河川と同じ高さなら危険。氾濫平野は河川の氾濫や液状化のリスクが高い。【A】 遺跡が多く分布する場所は、河川の氾濫の影響を受けづらく、液状化もしない比較的安定な土地（台地）。【B】 ○資料4：津波により川が逆流する。【B】 津波。遺跡は津波が来ない。←安全な場所に建てられている【B】

参考までに、ワークシート・資料編に資料1～4の解答例を示す。

授業内で生徒の居住地域を網羅することは不可能である。本校には西尾市・安城市以外からの通学生もいる。実践例を踏まえ、自宅周辺に置き換えた考察をまとめ・振り返りの欄に記入したり、空いた時間にグループのメンバーに説明したりする生徒がみられた。複数の地図の比較や防災について、この事例を通して方法論を学び、居住地域といった自己の興味に即して考察・判断することが可能になったと思われる。条件の違いによって適切な解答が異なる点を認識し、生徒自身で最適な解答にたどり着けるよう促すとともに、発表などで多様性を認め合う雰囲気作りに努めたい。

今回の実践は、学習指導要領の3(1)エ「学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし、政治的、経済的、生物的、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。」を意識した実践でもある。歴史を専門とする教員にとっても、歴史的事象を利用して地理的なものの見方・考え方の育成が可能である実践と理解いただければ幸いである。

(2) 課題

この計画案は、1時間で行うには内容が多すぎる計画であることは否めない。時間短縮のため、ロイロノート・スクール（株式会社 LoiLo、以下「ロイロノート」と表記）を利用し、地理院地図やハザードマップにおける古地図の地点情報を送信した。スマートフォン上で表示できる地図の範囲が狭いため、スクロールや拡大中に資料の地点を見失う生徒が続出した。また、作業に必要な資料を同時に全て送信したため、先走って次の資料を見てしまう班が続出した。資料提示の仕方に工夫・改善が必要であり、ロイロノートなどデジタル機器の使用法の研究も進める必要がある。

1年次に地理総合を実施する学校では、この単元を1学期に実施することが想定されるため、生徒達の作業・理解が時間的・内容的にも厳しい可能性がある。1年生の担任するクラスを対象に、防災教育の一環と称して1時間で実践したが、2割の生徒は作業について行くことができなかった。調査と考察で2時間程度の授業案とし、自宅での作業を挟むのが解決策のひとつであろう。一方で、中学時代の学習内容は3年生よりも覚えているため、ワークシート3の記述ではハザードマップを見ただけでこちらの意図を見抜く生徒もいた。作業中の合間の雑談からも、3年生と比べてより具体的な地名や例を挙げつつ、考察する様子が見受けられた。

複数の地図・資料の比較が目的とすると、適切な地図・資料をいかに用意するかが課題となる。現在の資料だけでなく、過去の資料を探すとという視点も身につけさせる必要があるだろう。その際には、『愛知県史』や市町村史にある口絵・図版、地元の博物館などの所蔵資料が参考・候補になりうるので、活用を考えてみるとよいだろう。同時にこの事例は、「C 持続可能な地域づくりと私たち（1）自然環境と防災」の実践例としても使用可能である。この場合は防災の方法まできちんと考えさせたい。

7 参考文献

- ・『新編 安城市史 10 資料編 考古』（安城市史編集委員会編，安城市，2004年）
- ・『新編 安城市史 6 資料編 近世』（安城市史編集委員会編，安城市，2005年）
- ・『新編 安城市史 2 通史編 近世』（安城市史編集委員会編，安城市，2007年）
- ・『新編 西尾市史 資料編2 古代・中世』（新編西尾市史編さん委員会編，西尾市，2019年）
- ・『新編 西尾市史 資料編3 近世1』（新編西尾市史編さん委員会編，西尾市，2020年）
- ・「安城市水害ハザードマップ」
<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/yakudachi/hazardmap/index.html>
- ・「地理院地図」 <https://maps.gsi.go.jp/>
- ・「ハザードマップポータルサイト」 <https://disaportal.gsi.go.jp/>